

科目	日本史探究	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	2年・文1・文2
使用教科書	「詳説日本史」山川出版社				
補助教材等	「最新日本史図表」（第一学習社）・「日本史研究ノート標準編」（啓隆社）				

1 学習の到達目標

日本列島に人類文化が誕生してから国家として近代化されるまでの有様を、世界全体の動き、特に東アジアと関連させて考察し、私たちの祖先が残してくれた誇りうる歴史的遺産を認識するとともに、歴史から得た教訓を将来に生かす態度を養う。社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・日々の予習と復習をしっかりとしてください。
- ・歴史的な出来事については「原因」「経過」「結果」をしっかりと把握し、自分の言葉で説明できるようになりましょう。
- ・明確な答えのない問いもたくさんあります。授業で習った様々な知識から総合的に判断し、自分なりの合理的な見解を示せるようになりましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	何かを覚えることは歴史を学ぶことの本質ではないが、やはり自分なりの「歴史観」を持つうえで正確な知識は欠かせない。 また同様に、文章の読み取り、図画資料や表・グラフなどを正確に読み取る技能も必要である。	小型の携帯端末でいつでも調べ物ができる現代にあっては、正確な知識を持っているだけではそれ以上の価値を持つことはできない。 自分の中に蓄えた知識を用いて思考・判断し、自分なりの見解を発信する力が求められる。	社会的な事象は教科書や授業の中で完結するものではなく、常に実社会との関連性を持っている。社会科で得た力を有意義なものにするためには、日常の中においても「社会科的見地」で視るという態度が必要となる。 授業で得た知識を日常の事象に当てはめる、あるいは日常で感じたことを元に授業で歴史について考察する。このように双方向かつ主体的な態度が求められる。
主な評価方法	・ペーパーテスト（事実に基づく知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題）の結果で評価する。	・ペーパーテストの一部で、思考・判断・表現力を必要とする問いを出題し、その結果で評価する。	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・提出された授業ファイルの内容 上記をもとに評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成	28	古代日本の形成と律令国家の形成に至る概要を多角的に考察し、理解する。	・律令国家の形成に至るまでの過程を史料等を用いて多角的に追及している。(a) ・律令に関する史料から読み取れた内容をもとに、律令国家がどのような国づくりを目指していたかについて思考することができる。(b)
7 8 9 10 11	第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	29	貴族社会の成立とその発展及び文化の成熟について理解する 武家社会に移行する歴史的過程について、多角的に考察し、理解する	・貴族社会の成立から武家政権の成立までに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。(a) ・武家政権が成立した過程とその必然性を自分の言葉で説明することができる。(b)
12 1 2	第7章 武家社会の成長 第8章 近世の夜明け 第9章 幕藩体制の成立と展開	13	武家社会の成熟と江戸幕府の支配体制について、社会経済の動向及び世界史的観点も取り入れながら多角的に考察し、理解する	各武家政権の特徴と違いについて理解することができる。(a) 江戸幕府が長命であったことについて、それまでの武家政権と比較しながら、その理由を説明できる。(b)